

## 医心 伝心

# 毛虫皮膚炎 今年の動向

県医師会監事 佐藤 英敏

毎年、4月から10月まで毛虫皮膚炎で来院される患者さんが大勢いらっしゃいます。毛虫皮膚炎は毛虫（主にチャドクガの幼虫）の毒針毛に触れることで生じる皮膚炎で激しい痒みを伴います。例年では、4月中旬頃からポツリポツリと来院され、5月になると一気に患者数が増えるのが特徴で、最も多いのが6月です。一昨年は患者総数が140名でしたが、昨年は全国的にも毛虫の大発生がみられ、当院でも258名と100名以上増えたので、12月の医報とやまに「今年はチャドクガの当たり年？」と題して寄稿しました。さて、今年はどうと昨年どころではありませんでした。今年の特徴は4月の患者数は0名で、5月に入ってからわずか16名と例年とは全く違い毛虫の発生が遅かったようです。余りにも少ないので、毎年毛虫皮膚炎の患者さんには被害に遭わない対処法をお伝えしていた努力が実ったのかと思ったのですが、如何やら原因は1月から3月の気温にあったようです。今年は昨年に比べて平均気温が約1℃低かったため卵の孵化が遅れたと考えられます。そのためか6月に入ってから一気に患者数が増える結果となりました。6月の患者数は102名、7月は84名、8月66名、9月は106名と最も多く、10月は24名、11月は6名で今年の毛虫皮膚炎の患者数は合計404名と過去最高を記録しました。これだけ多いと連日何人もの患者さんが来院され、待合室は毛虫談義で賑やかでした。私も同じ説明を何度も繰り返

返さなければならず少々うんざりすることもありました。

さて、毛虫はツバキやサザンカの葉に多数生息します。庭や公園などこれらの樹木が生えている場所で罹患する患者さんが多いのは当たり前ですが、毎年、特徴的な患者さんが来院されます。一昨年は若い男性が5月と9月に多かった記憶があります。春と秋の祭りシーズンに地元の神社で獅子舞の稽古中に罹患されてのものでした。そして昨年は小学生が多数来院されました。校庭周囲の生垣に毛虫が多数発生して被害にあったためでした。今年は青年も小学生もあまり多くは来院されませんでした。地元の自治会や学校関係者らが毛虫の駆除に取り組んだお陰です。しかし、その駆除作業に関わった方々が毛虫被害にあったのは何とも皮肉な話でした。そして今年の傾向は、中高年の女性が多く来院されたことです。皆さん口々に畑仕事のあと発疹が出て痒くなったとおっしゃいます。畑で被害にあったのか、畑へ行く道すがら被害にあったのかは定かではありませんが、毎年何らかの特徴が見られるのは興味深いことです。来年も毛虫皮膚炎の動向に注視したいと思います。